

中国人の日本語はどこに間違いが起きやすいか—第二言語習得論から論じる

学部4年 富田仁美

1.はじめに

『中国人の日本語はどこに間違いが起きやすいか—日本語学習者の手紙から検討する』で、日本語を学ぶ中国人学生の手紙文から誤用と思われる箇所を取り上げて、なぜそのようなミスに至ったかを考察した。その結果、中国人学習者が陥りやすい間違いには、過剰般化による負の転移、日中間の対人関係における距離感のギャップがもたらす不自然な日本語、中国人特有の漢字の誤用があると分かった。本稿では、これを踏まえた上で誤用についてさらに詳しく論じたいと思う。

2.「日本語を学ぶのは難しい」

2008年、中国・南京に語学留学していた頃、日本語を専攻する現地の学生と日本語で会話をする機会があった。そこで気になったのが、ある文法的な間違いを多くの学生が同じように犯していたことだ。たとえば、次のようなものである。

(正) 日本語を学ぶことは難しい。

(誤) 日本語を学ぶのは難しい。

このような連体修飾のしかたのミスをする学生がとてもたくさんいた。大学の日本語学科で学んでいても、多くの学生がこのような同じ誤りをするということは、日本人と中国人の言語に関する思考パターンには大きな隔たりがあるのではないかと考えられる。

いまなぜこのような間違いが起きるかを、私なりに考えてみると次のようなことが考えられる。「日本語を学ぶことは難しい」にあたる中国語は次のものである。

- | | |
|------------|----------------|
| 1) 学习日语很难。 | 日本語を勉強するのは難しい。 |
| 2) 日语的学习很难 | 日本語の勉強は難しい。 |

中国人にとって難しいのは 1)のほうである。“学习日语很难。”の“学习日语”は英語で言えば“studying Japanese”か“to study Japanese”でその部分が中国人の日本語では「学ぶこと」ではなく「学ぶのこと」となってしまうのだ。

この問題を私はこう考える。中国人は日本語を話すとき、次のような中国語を頭に置いているのではないだろうか。動詞を名詞化する場合、日本語では「こと」を用いるという事をどこかで学んでいる学習者は次のような中間言語を考えるのではないか。「中間言語」とは「目標言語を新たに学習しようとする時、その習得中の目標言語が母語あるいは第一

言語の影響を受けて、本来の目標言語とは発音・語・文あるいは談話の形態が部分的に異なった一種の中間的言語となった状態」¹を言う。

[中国語を学ぶ]+[こと] [むずかしい]

つぎにそれに、相当する中国語を頭に描く。

学习日语的事 很难

これを日本語に逐語訳していく。“事”を“学习日语”が修飾するためには、中国語においては助詞“的”が不可欠だ。そしてこれを中国語に逐語訳すると以下の日本語ができあがる。

[学习日语]	[的]	[事]	[很难]
↓	↓	↓	↓
[日本語を学ぶ]	[の]	[こと]	[難しい]

主題に「は」をつけることは難しくない。しかし「の」を省くことは難しいのだ。このプロセスを図示する。

- (1) 中国語“学习日语很难”そのものを逐語訳して「日本語学ぶ難しい」はおかしいということはわかっている。
- (2) 「こと」を入れる必要があると考え、中国語で中間言語“学习日语的事很难”を生成する。
- (3) それを逐語訳して「中国語を学ぶのことは難しい」とする。

ここからわかるのは、中国語にない助詞「を」や「は」を使用することはそれほど難しくないが、中国語にある「的」を省くことが難しいということだ。

なぜこのような間違いが起きてしまうのか。それは動詞の活用が、助詞の使用よりもはるかに中国人にとって難しいからである。動詞の活用は日本人でも問われると分からない。この活用は教室で当然習っているはずだが、本居宣長や鈴木胤以来の「××段活用」の表は複雑すぎて覚えられない。外国人には無理である。「まなぶ」は四段活用である。

未然	まなばーない
連用	まなびーて
終止	まなぶ。

¹ 水野光晴「中間言語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 術語編』第6巻、三省堂、1996。

連体	まなぶーとき
仮定	まなべーば
命令	まなべ。

おそらく日本語教育の現場でも、これをうまく教えられる人がいないのだろう。そこで学生はなんでも中国語を日本語に置き換えようとする。すなわち活用のようなどめんどくさいものは気にせず、「終止形」+「の」にしてしまうのだ。「の」は日本語にはないものだから、こうした中国語を置き換えた日本語は、きわめておかしいものになってしまうのだ。語彙だけ日本語で文法が中国語の「ピジン・ジャパニーズ」ができるわけである。

3. 誤用の理論—転移と過剰般化

水野光晴「誤り error」は²、第二言語（L2）の学習における誤用の現象について次のように述べている。

誤用を原因によって分類すれば、異言語間エラーと言語内エラーの2種類がある。前者（異言語間エラー）は学習者のL1（第一言語）構造を反映すると考えられる誤りで、干渉 *interference* とも言われる。後者はL2（第二言語）規則の不適切な使用で作られるもので、この種のエラーには過剰般化、L2の制約事項の無知、L2規則の不完全適用、学習仮説の誤りなどによるものがある（Richards1971）。さらに誤りをコミュニケーションの観点から、全体的エラーと局所的エラーに区分することがある。前者はその誤りが文の全体構造に影響して内容の理解に支障をきたすケースで、後者は動詞語尾の三単現のSとか、不定冠詞のaまたはanのエラーのように文中の特定要素に限定されていて内容の理解には支障をきたさない。一般に母語話者の教師は前者の誤りを重視する傾向があるが、非母語話者の教師は後者の誤りを問題にする傾向が強いようである（Burt and Kiparsky1974）。

この異言語間エラーで、L2学習の際にL1のパターンを使用してしまうことを言語転移 *language transfer* と言う³。1.1 で見た「日本語を学ぶのは難しい」のように、日本語にない関係節における助詞「の」の使用は、中国語の関係節に使われる“的”の転移である。

以下に、このような中国人の誤用の諸相を詳しく検討していきたい。中国人学習者の誤用は、日本における留学生への日本語教授者による経験の蓄積があり、多くの研究がなされている。しかし筆者はそうした経験がないので、細かい点を考察するのではなく、ともかく中国人がどういう種類の誤用を起こすかに関心をもって網羅的に取り上げてみた。

² 水野光晴「誤り error」小池生夫主編『応用言語学辞典』研究社 2003、p.150。

³ 水野光晴「中間言語」小池生夫主編『応用言語学辞典』研究社 2003、p.150。

4. 漢字による日本語語彙の類推—「閉める」と「閉じる」

たとえば語彙の問題について一つ挙げると、“目を閉じる”が“目を閉める”になってしまふことがあった。なぜこういった間違いが起きるのだろうか。

日本語の「閉じる」はそもそもどういった時に使うのだろうか。たとえば「目を閉じる」のほかに「本のページを閉じる」「オリンピックが幕を閉じる」という使い方をする。

次の場合、「閉じる」はいいが「閉める」とは言わない。

彼は目を閉じた	*彼は目を閉めた
目を閉じてください。	*目を閉めてください。
まぶたを閉じてください。	*まぶたを閉めてください。
口を閉じてください。	*口を閉めてください。
唇を閉じてください。	*唇を閉めてください。
オリンピックは幕を閉じた	*オリンピックは幕を閉めた
本のページを閉じた。	*本のページを閉めた
本を閉じてください。	*本を閉めてください。
箱の蓋を閉じる。	*箱の蓋を閉める。
彼は自分のホームページを閉じた。	*彼は自分のホームページを閉めた。
主催する稽古場を閉じた。	?主催する稽古場を閉めた。
彼は心を閉ざしてしまった。	*彼は心を閉めてしまった。

次の場合「閉める」はいいが「閉じる」とは言わない。

?冷蔵庫の扉を閉じなさい	冷蔵庫の扉をしめなさい。
*バッグの口を閉じた。	バッグの口を閉めた。
*鞆のファスナーを閉じなさい	鞆のファスナーを閉めなさい。
*うしろのドアを閉じて。	うしろのドアを閉めて。
*入り口を閉じた。	入り口を閉めた。
*ボトルのキャップを閉じて。	ボトルのキャップを閉めて。

次の場合「閉める」でも「閉じる」でも言える。

ケースの蓋をしっかりと閉じなさい。	ケースの蓋をしっかりと閉めなさい
骨壺の蓋を閉じた。	骨壺の蓋を閉めた。(「蓋をした」)
缶の蓋を閉じる	缶の蓋を閉める。(「蓋をした」)
店のシャッターを閉じた。	店のシャッターを閉めた。

彼は店を閉じた。

彼は店を閉めた。（「やめた」の意味ある）

次の場合「閉める」も「閉じる」も言えない。

事件現場への道を封鎖した。（*閉じた、*閉めた）

国境を閉鎖した。（?閉じた、*閉めた）

この二つはどう違うのだろうか。「閉じる」は、身体とか箱状のもの、行事、場所、心など開閉する入り口があるとは言えないものに使う。その他、今まで持続してきた行為を終わりにするという意味が含まれている。一方「閉める」は、入り口、蓋、ドア、ファスナーとか開閉を操作するフタがあるものについて、それを閉めるという時に使う。フタの類の中には「シャッターを閉める／閉じる」と両方言えるものと、「ドアを閉める／*閉じる」のように「閉める」でないとだめなものもある。「カーテン」は「フタ」のように遮蔽するものと意識され「カーテンを閉める／?閉じる」と「閉める」のほうが良い。これにたいして「シャッター」は英語は閉めるものという意味だが、「閉める」も「閉じる」も言えるのは、新しいものなのでコロケーションが定着していないようだ。「障子」は「閉める／*閉じる」である。「店」は「閉める」と言うのは開閉するものという意識があるからだろう。「店を閉じる」と言うのは「店を終わりにする」という意味の時である。

日本人は、この「とじる」と「しめる」を同じ「閉」という漢字で表す。中国の日本語学習者は、「閉じる」も「閉める」も同じ「閉」という字を使うので、中国語の「閉」と同じと考えるのではないか。「閉幕」「閉眼」のように「閉」を使うものを自動的に「閉」をあてて考えるので、「幕をしめる」「目をしめる」としてしまわないだろうか。

この「閉じる」と「閉める」の違いは意外に難しい。たとえば小学館の『日中辞典』の「閉じる」には、①閉, 关闭; 盖; 合②结束の意味があるとし、①には次のような例が挙げられている。

戸が自動的に閉じた。门自动关上。

貝の蓋が閉じる。贝壳闭上。

箱の蓋を閉じなさい。把盒子盖上。

「戸が自動的に閉じた。」「箱のふたを閉じなさい。」は不自然であり、「戸が自動的に閉まった。」「箱の蓋を閉めなさい。」のほうが自然である。つまり、この辞書を作っている人が「閉める」と「閉じる」の区別がついていない。これでは、中国人学習者が間違えるのも無理はない。

さらに、中国で作られた大连外国语学院編『新日汉词典』（辽宁人民出版社）の「閉じる」には次のような例が挙げられている。

[上一自]①关, 闭、

店が閉じている。商店关着板呢。

②结束、

祝賀会は 12 時に閉じる。庆祝会 12 点结束。

[上一他] ①合上, 关闭、

本を閉じる。合上书。

口を閉じる。闭上嘴。

②结束

今日の会議を閉じる。今天的会议到此结束。

下線部の日本語は不自然である。「店が閉まっている」「祝賀会は 12 時に終わる」「今日の会議を終わる」が正しい。

その時、私が考えたのは、中国人は「めをとじる」と覚えているのではなく、「目を閉じる」という漢字で覚えていて、それを中国語の“闭眼”と結びつけているのではないかということだ。

「目を閉める」という誤用は、「しめる」「とじる」の類義語の使用制限を無視した誤りとも言えるが、やはり「閉」という漢字があてられていることが誤用の原因である。

日本語学の分野で、しばしば日中の漢語の類似による転移が取り上げられるが、これは漢語の問題ではなく、日本語の綴りに漢字が使用されるための誤用である。

5. おわりに

誤用例の分析の結果、中国人が犯しやすい日本語の誤りには第二言語習得論の指摘する転移、過剰般化、L2 の使用制限の無視など、一般理論にしばしば挙げられる誤用があることが分かった。それに加えて、日本語における漢字の使用にともなう転移の問題がある。とくに指摘したいのは、「閉じる／閉まる」「久しぶり」のように和語にあてた漢字が転移を起こした結果、おかしい日本語になってしまう現象だ。この点は、従来の日本語教育学でも取り上げられていないと思われる。

参考文献

水野光晴「中間言語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 術語編』第 6 卷、三省堂、1996。

水野光晴「誤り error」小池生夫主編『応用言語学辞典』研究社 2003、p.150。

水野光晴「中間言語」小池生夫主編『応用言語学辞典』研究社 2003、p.150。

富田仁美「中国人の日本語はどこに間違いが起きやすいか—日本語学習者の手紙から検討する」『KOTONOHA』第 99 号 2011、pp.12-17。

対外経済貿易大学・商務印書館・小学館『日中辞典 第二版』2001。

大连外国语学院編『新日汉词典』辽宁人民出版社 1988。